

遠藤れい子の県政だより



○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 TEL0258-32-1741 Fax0258-32-6443

○遠藤れい子県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 TEL025-280-5475

遠藤れい子県議が9月定例会(9/24~10/11)の連合委員会(10/7)でおこなった知事質疑について報告いたします。

温暖化防止・海洋汚染対策へ 県が率先して廃プラスチック削減を

【遠藤れい子県議】

いま、世界では地球温暖化防止と海洋汚染防止のため、廃プラスチック削減が叫ばれています。政府も今年2月、閣議決定で中央官庁・裁判所などの国の機関で、使い捨てプラスチックの原則使用禁止を決め、新たな契約から実施してまいります。

本県においても、県庁や地域振興局、県立病院など地域機関もふくめて、県が率先して廃プラスチック削減対策にとりくむべきではありませんか。

【花角知事】

プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な課題となっている状況や国の動向などもふまえ、使い捨てプラスチック削減の視点も加えた調達方針のいっそうの徹底をはか



り、県が実施する会議やイベントなどにおける使い捨てプラスチックの使用削減の取り組みを強化してまいりたいと考えております。

高齢ドライバーの事故防止へ 免許自主返納への支援を

【遠藤れい子県議】

高齢者による事故が多発する中で、お年寄りの免許自主返納が今日的課題となっています。

新潟県は、自家用車が唯一の移動手段となっている地域が多いことから、なかなか自主返納がすすまない現状があります。

すでに県内の17市町村が、高齢者が免許を自主返納すれば「バス券やタクシー券を支給する」などの支援事業を行っています。一度限りの支援にとどまっています。



県央基幹病院の完成予想図(県のホームページより)

「財政危機」を理由にして 医療を縮小させてはならない

【遠藤れい子県議】

「県行財政改革行動計画」には、県立病院や県央基幹病院を「検討」すると記述されていますが、公立・公的病院の役割について、どのように認識していただけるのでしょうか。

【花角知事】

公立・公的病院は、へき地等における医療、救急・精神などの不採算・特殊部門にかかわる医療、民間では限界のある高度医療などを担うことが本来の役割と考えています。本県においては歴史的経緯などから一般の地域医療の多くも担っています。

財政危機が理由の 計画縮小ではないか

【遠藤れい子県議】

県央基幹病院見直しの理由に「医療情勢の変化」があげられています。どのような変化が生じているのでしょうか。

【花角知事】

人口の減少や平均在院数の短縮、新専門医制度や医師の働き方改革、地域医療構想実現に向けた機能分化

と連携などで「地域医療構想調整会議」において、議論していただく予定です。

【遠藤れい子県議】

わずか2年前の地域医療構想を見直す必要があるのでしょうか。財政難を理由として縮小の方向で誘導されるように受け止められませんが。

【花角知事】

県としては、医療の専門家から検証していただく中で、予断を持たずに推移を見守りたいと考えています。

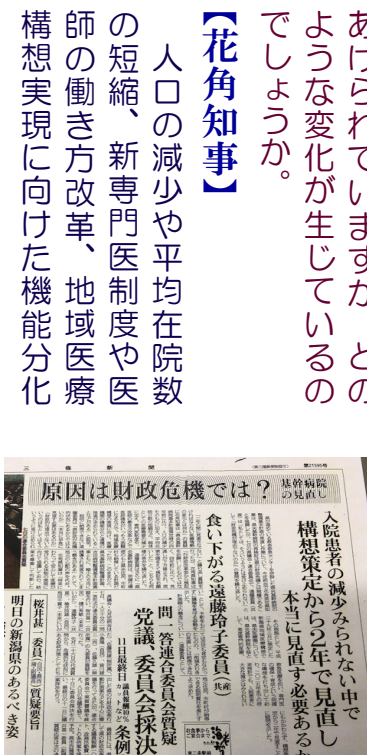
説明責任を果たせ

【遠藤れい子県議】

縮小の方向で見直すということは否定されませんが、財政難を理由に県民の命を削る見直しには納得できません。地域住民にしっかりと説明責任を果たすよう強く求めます。



自主返納者を含め、運転免許やマイカー等を持たない方々の移動手段を各地域の実情にに応じて確保するなど、高齢者の日常生活を支える環境の整備に取り組んでまいります。



「食い下がる遠藤玲子委員」と報じる「三條新聞」(10月8日付)

台風19号…いち早く現地調査、長岡市に要望

——藤野やすふみ衆院議員も現地入り、聞き取り調査、募金活動も——

列島を直撃した台風19号により、各地で甚大な被害が発生しました。信濃川の水位が上昇し、浄土川が氾濫。フェニックス大橋東側、信濃川右岸の今井町・宮内町などで床上・床下浸水、自家用車が水没するなどの被害が広がりました。

遠藤れい子県議は、ただちに現地調査に入り、藤野衆院議員や長岡市議とも連携して、救援活動にあたりました。



10/13、早朝の信濃川・与板橋付近



水没したアンダーパス



信濃川・大河津分水可動堰付近



10/20、藤野保史衆院議員と今井町の被災状況を視察



10/18、アオーレ前で救援募金活動



水位の下がった浄土川



10/25、磯田長岡市長に台風19号被害対策を要請

県は11月8・9日、原子力災害を想定した実動訓練を5年ぶりに実施しました。原発から5km圏内（PAZ）の住民500人が避難訓練に参加し、村上市や妙高市などの避難先自治体も参加する大掛かりなものです。遠藤れい子県議は9日、放射性物質の汚染を広げないためのスクリーニングポイントに指定された燕市のさくら公園を視察しました。花角知事も視察に訪れ、バスで避難してきた住民や車両の検査、マスキング作業などが行われ、マスキングにも公開されました。

原子力災害を想定した実動訓練を視察（11月9日）

公立・公的病院の再編・統合求める厚労省に抗議 地域医療の充実へ、要請書を提出

9月26日、厚労省は突然「再編・統合について特に議論が必要」な公立・公的病院名を公表。問答無用のやり方に、全国各地から避難と抗議の声が上がっています。遠藤県議は10月11日、知事あてに「国に反対を」「遅れている新潟県の医療体制の拡充こそ急ぐべき」などの申入れを行いました。



県民運動団体とともに「秋の要請行動」

遠藤れい子県議は11月7日、「県民大運動実行委員会」のみなさんとともに、社会保障や労働、商工、農業、教育、平和、鉄道などの各分野の課題で、県への要請行動をおこないました。



公務労働を臨時・非正規（会計年度任用職員）に置き換えるな

9月議会に提出された 条例改定案に反対

来年度から新たに「会計年度任用職員制度」を創設する条例改定案に反対する理由の第一は、ほんらい正規職員が担うべき基幹的・恒常的業務まで、臨時・非常勤職員への置き換えがすすむのではないかと懸念がぬぐえないことです。

第二に、臨時・非常勤の職員を正規化する道はなく「管制ワーキングプア」を増大させるのではないかと懸念がぬぐえないことです。

第三に、フルタイムとパートタイム職員の間に待遇差がつくられ「同一労働、同一賃金」の原則に反することです。

第四は、この条例の運用について、職員団体との協議はまだ途上にあるという問題です。病院局の臨時職員の処遇などをめぐり、様々な問題で協議が行われている最中で合意に至っておりません。少なくとも職員団体との十分な協議と合意を前提とすべきです。

災害対応など重要な公務労働は、原則として任期の定めのない正規職員を中心とすべきであり、臨時職員が権利を守る点からも問題があり賛成できません。

（賛成多数で可決しました）